

新たな文化のシンボルが誕生

1 桂川町に万葉歌碑が建立

万葉集の愛好家がつくる「嘉摩万葉を学ぶ会」(川波二郎代表)が、桂川町寿命にある王塚裝飾古墳館の玄関前に、万葉歌碑を建立しました。そして、その除幕式が3月23日に行われ、新たな文化のシンボルがまた一つ、桂川町に誕生しました。

そもそもこの筑豊地区は、万葉歌人の山上憶良が嘉摩郡を訪れ、「子らを思う歌」など嘉摩三部作を選定したゆかりの地と指摘されています。「嘉摩万葉を学ぶ会」はこれまで飯塚市にも2基建立しており、桂川町が3基目となります。

歌碑に刻まれた文字は、万葉集の研究で第一人者の故 犬養孝さんの揮毫(筆をふるうこと)した歌が刻まれています。

「穂波郡(昔の地名)に建立できて感無量です。今後、この地が万葉集愛好家みなさんの関心を集める場所になって欲しいと期待しています。」と、川波代表がコメント。皆さんもぜひ、この素晴らしいシンボルに触れて、古代ロマンに浸ってみませんか。



▲ 白御影石製のこの歌碑に刻まれた和歌は「道の辺の 草深百合の 花咲に 咲みしがらに 妻といふべしや」。作者不詳のこの和歌の内容には、いくつかの解釈があります。その一つには「ほえんだだけで、もう妻と呼んでいいのか」と求婚する男性を女性がたしなめたとされる解釈があります。

山上憶良ってどんな人?

やまのうえのおくら
山上憶良は奈良時代初期の万葉歌人として有名な人です。702年の第7次遣唐使に同行。帰国後は筑前守と国守などを歴任しながら、多くの歌を詠んだ人です。叙情的な感情描写に富んだ歌が多数あります。

Yamanoueno Okura

人事

4月1日からの新規採用職員です。
よろしくお願ひします。

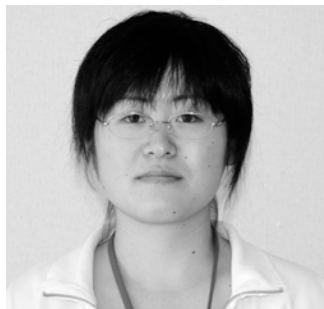
税務課 税務係

野見山 裕子



健康福祉課 健康づくり係

高島 英里子



社会教育課 社会教育係

坂口 敬祐



建設課 工務係

芳中 康平

